

報告事項

- (1) 第1回静岡県循環器病対策推進協議会（書面開催）の御意見と今後の対応
- (2) 令和7年度循環器病対策推進事業等の状況



幸福度日本一の静岡県

第1回静岡県循環器病対策推進協議会(書面開催) での御意見と今後の対応

報告事項：

令和7年度循環器病対策推進事業等

- (1) 脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業
- (2) 県民向け普及啓発
- (3) 啓発資材の作成
- (4) その他の事業

意見照会：令和7年10月9日～10月31日

①脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業に係る主な御意見

| | 委員 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|--|--|
| 1 | 田淵委員 | 相談窓口の今後に期待しています。 | 御意見を浜松医科大学医学部附属病院とも共有し、相談窓口の周知を図るとともに、相談内容等を共有できるように検討してまいります。 |
| 2 | 森委員 | 理学療法士協会においても他県の活動などをお聞きすることがありますが、どのような相談があったか、対応したスタッフの業種などをまとめていただくことで、県民の困りごとなどが浮かび上がってくるかと感じました。報告を待ちたいと思います。 | |
| 3 | 諏訪委員 | 脳血管疾患、脳内出血の標準化死亡比（対全国）では静岡県全体が非常に悪く、その他の脳梗塞、心疾患、急性心筋梗塞、心不全等は静岡県東部、伊豆半島が悪い現状を早急に改善するべく様々な対応が必要と常々感じております。具体的に事業化されることは喜ばしいことと存じます。 | |
| 4 | 久保田委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・県民へ相談窓口設置の周知について、媒体はチラシ以外に何か計画がありますか。名刺大のカード、シールなども携帯、活用しやすいのではないかと思います。 ・医療従事者向け研修会はWebなので参加しやすいです。 | |
| 5 | 山本委員 | まずは、静岡県西部が中心に事業展開されると思いますが、中部、東部を含め、全県的なサポート体制の確立をよろしくお願ひします。 | |

①脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業に係る主な御意見

| | 委員 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|---|--|
| 6 | 海野副会長 | 静岡県全域との連携を如何に構築していくかが課題かと思えます。特に2026年から始まる「新たな地域医療構想」の中で、このセンターモデル事業がどのような役割、位置付けとなるかを明記すべきです。4ページのポンチ絵の中には「地域医療構想」や、「地域医療調整会議」の言葉はなく、このセンターモデルと両者との関わりが不明です。 | 本年度、国のモデル事業として設置・実施しているものです。新たな地域医療構想については、今年度内に国からガイドラインが示される予定です。県では、来年度、本ガイドラインに基づき、新たな地域医療構想の策定に取り組んでまいりますので、御意見の点を含めて検討してまいります。 |

②県民向け普及啓発に係る主な御意見

| | 委員 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|---|--|
| 1 | 諏訪委員 | 突然の異常が出現した際の対応をぜひ理解していただきたいと存じます。 | 引き続き、県民向けの普及啓発に取り組んでまいります。 |
| 2 | 山本委員 | 講演する立場からは、より多くの市民の皆様の後聴講いただきたいと思っておりますので、当日を含め後協力の程よろしくお願い申し上げます。 | |
| 3 | 海野副会長 | 静岡県は地域・医療圏ごとの格差が大きいので、地域ごと、あるいは都市部と郡部に分けての啓発、情報供与が必要かもしれません。具体的には近傍に医療機関が無い地域（郡部、農村部、山間部など）では脳卒中、心筋梗塞が疑われるとき、初動はどうすべきなのか？など住民は知りたいと思っているのでは無いでしょうか？ | まずは、全県の普及啓発に取り組み、今後、地域ごとの実情に応じた普及啓発について、御意見を伺いながら取り組んでまいります。 |

③啓発資材の作成（脳卒中手帳（仮称）の検討）に係る主な御意見

| | 委員 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|---|----------------------------|
| 1 | 諏訪委員 | 脳卒中の危険因子を有する方に広く届けるのがよろしいと存じます。 | 御意見を踏まえ、内容、活用方法を検討してまいります。 |
| 2 | 久保田委員 | スライド20<項目案>で、くまもと県脳卒中ノートでは、 ●脳卒中の再発予防の「予防」に塩分制限があり、「生活習慣」は「減塩の工夫」と重なりがあります。「生活習慣を工夫しよう」を「食事のとりかた」または「食生活」を工夫しようなどにしてはいかがでしょうか。 | |
| 3 | 山本委員 | 紙媒体での手帳として配布することは不可欠だと思いますが、マイナ保険証なども始まっているので、スマホアプリなどの電子媒体での資材作成も検討してはいかがでしょうか？ | |
| 4 | 海野副会長 | 資材を利用した方々（患者さん、並びにその家族）の声を届けてください。 | |

③啓発資材の作成（初期症状に係る啓発資材の作成）に係る主な御意見

| | 委員 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|---|----------------------------|
| 1 | 諏訪委員 | 家族にも行き渡る様に出来れば直しいと存じます。 | 御意見を踏まえ、内容、活用方法を検討してまいります。 |
| 2 | 海野副会長 | 資材を利用した方々（患者さん、並びにその家族）の声を参考にして改良版の作成、あるいはアップグレードについてご検討ください。 | |
| 3 | 山本委員 | 活用方法について、小学校、中学校、高校などの教育機関も啓発の対象として含めてはいかがでしょうか？ | 学校への啓発資材の配付を検討してまいります。 |

④その他の事業に係る主な御意見

| | 委員 | 事業 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|----------------------------|---|--|
| 1 | 田淵委員 | 心不全手帳 | 心臓病友の会にも持っている人がいて参考にしているようです。食塩量についても大変です。 | 引き続き、心不全手帳の活用を図ってまいります。 |
| 2 | 久保田委員 | 心不全手帳 | 心不全手帳導入後の現場や患者さんの声などわかれば知りたいです。 | <p><把握している御意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、認知的問題や小さな枠に数字の記録ができない等の理由から導入できない患者が増えている。 ・手帳を導入ができれば再入院抑制には一定の効果がある。 |
| 3 | 鈴木委員 | 心不全手帳 心不全再入院 予防診療支援 | 2024年8月に、一般社団法人日本心不全学会により「薬剤師による心不全服薬管理指導の手引き 第1版」が作成され、薬剤師による介入が心不全予後を改善するとの結果がメタ解析で報告されております。心不全手帳の活用促進においては、協力医療機関の拡大とともに、薬剤師とも連携し情報共有できるような取組にしていきたい。 | 心不全手帳の活用にあたっては、県薬剤師会、県病院薬剤師会等の関係団体にも協力を依頼してまいります。 |
| 4 | 諏訪委員 | 「急性冠症候群再発予防フロー（静岡県版）」の活用推進 | 各医師会へ十分働きかけて頂けると効果がより高くなるのではないかと存じます。 | 引き続き、研修会等の機会を通じて活用を推進してまいります。 |

④その他の事業に係る主な御意見

| | 委員 | 事業 | 御意見 | 今後の対応 |
|---|-------|----|--|--|
| 1 | 海野副会長 | 全体 | <p>「県循環器病対策推進協議会」と「新たな地域医療構想」との関係が不明瞭です。特に代表的な循環器疾患である脳卒中、心筋梗塞は救急医療でも最重要疾患であり、両疾患にどのように対処していくかで今後「地域医療構想」が左右される可能性もあります。そうした状況下で「県循環器病対策推進協議会」もまた「新たな地域医療構想」の枠組みの中に組み込まれるべきだし、「新たな地域医療構想」に対して意見を上申していく立場にあるかと思えます。したがって、地域、医療圏ごとの格差が大きい静岡県においては、医療圏ごとに「新たな地域医療構想」を模索していく必要があり、それに対して「県循環器病対策推進協議会」が果たす役割は大きいと考えます。医療圏を超えた対応が必要とも思われるし、そのことから新たな医療圏の再構築を提案しなければならないかもしれません。</p> | <p>新たな地域医療構想との整合を図りつつ、循環器病対策を進めてまいります。</p> |
| 2 | 山内委員 | 全体 | <p>全体を通じて、予防と初期の急性期加療についてがまずメインでいいと思います。</p> <p>脳卒中になって片麻痺や失語症、嚥下障害になった際の治療、装具に対するフォローアップやそれに対するリハビリテーション治療に関しては、ほとんどないような感じでした。</p> <p>脳卒中、循環器病になって困ることに活動面での問題が多いと思いますので、そのあたりももう少し追記してもいいのではないのでしょうか。それがないまま在宅医療での緩和に関する記事は、少し論点が違うように思います。</p> | <p>御意見を踏まえ、今後、緩和ケアに関する事業においては、リハビリテーションについても検討してまいります。</p> |

令和7年度循環器病対策推進事業等の状況

令和7年度循環器病対策推進事業等

| 事業 | | 概要 | 脳卒中 | 心血管疾患 |
|---|-------------------------------|--|-----|-------|
| (1) <u>脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業【新規】(国事業)</u> | | 浜松医科大学医学部附属病院において、循環器病患者・家族の相談支援窓口を設置するとともに、地域住民への情報提供、人材育成等を行う。 | ○ | ○ |
| (2) 県民向け普及啓発 | | 脳卒中月間(10月)、世界脳卒中デー(10月29日)、健康ハートの日(8月10日)、心房細動週間(3月9日～14日)等を中心に啓発等を実施する。 | ○ | ○ |
| (3) 啓発資料の作成 | ア <u>脳卒中ノート(仮称)の検討【新規】</u> | 脳卒中の再発予防や生活の再建に関する冊子の内容を検討する。 | ○ | |
| | イ <u>初期症状に係る啓発資料の作成【新規】</u> | 脳卒中や心血管疾患の初期症状に気付くための啓発(FAST等)資料を作成する。 | ○ | ○ |
| (4) その他の事業 | ア <u>在宅看護支援【新規】</u> | 緩和ケア等に係る訪問看護ステーションの地域情報交換会を実施する。(静岡県訪問看護ステーション協議会に委託) | ○ | ○ |
| | イ 一次脳卒中センター等の情報交換会 | 急性期病院(一次脳卒中センター)、救急隊等による意見交換会を開催し、地域課題の抽出、対応の検討を行う。 | ○ | |
| | ウ 「急性冠症候群 再発予防フロー(静岡県版)」の活用推進 | 治療に関わる医療従事者による適切なリスクコントロールを推進するため、「急性冠症候群 再発予防フロー(静岡県版)」の普及を図る。 | | ○ |
| | エ 心不全手帳の活用 | 心不全により再入院する患者を減らすため、心不全手帳を配布し、連携パスとして活用する。 | | ○ |
| | オ 心不全再入院予防診療支援 | 呼吸データを可視化するデバイスを活用し、心不全の急性増悪の早期発見・早期治療につなげる。(浜松医科大学に委託) | | ○ |
| | カ 先天性心疾患患者の支援体制構築 | 成人先天性心疾患患者情報を収集するDBの活用方法を検討する。(県立こども病院に委託) | | ○ |

(1) 脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

関連資料：資料2

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業（静岡県）

浜松医科大学医学部附属病院は、厚生労働省から「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」の医療機関に選定された。脳卒中・心臓病等総合支援センター（浜松医科大学医学部附属病院）、静岡県（静岡県循環器病対策推進協議会、各部会を含む。）と関係機関が連携し、県内全域の包括的な支援体制を構築するよう取り組んでいる。

浜松医科大学医学部附属病院

- 脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置・運営（周知資料の作成を含む）
- 県民への脳卒中・心臓病等の普及啓発
- 県内全域を対象とした人材育成
- 相談支援資材作成

脳卒中・心臓病等総合支援センター

<体制>

- ・責任者
- ・副責任者
- ・脳卒中と心臓病に精通した相談員
- + 各診療科医師が支援

- ・ストロークチーム
- ・ハートチーム
- ・ブレインハートチーム



連携

県内関係機関

中核医療機関
(各地域)

県医師会・病院協会

各関係団体

各病期を担う病院

かかりつけ医・薬局・
介護事業所等

静岡社会健康医学
大学院大学

- 支援センターへの協力（周知、事業への協力）
- 地域の支援体制の強化（人材育成、体制整備）

参画

静岡県

- 協議会・部会等による支援センターの取組推進
- 支援センターの周知
- 県関係団体、医療機関等への協力依頼
- 支援センターの横展開の働き掛け

県循環器病対策推進計画に
基づき各種事業を連携して実施

状況報告
協力依頼

実施事業
への協力

県循環器病対策推進協議会

脳卒中部会

心血管疾患部会

連携

(2) 県民向け普及啓発

脳卒中に関する県民向け講演会

概要

- 脳卒中に関する県民向け講演会を県東部地域で開催した。また、12月からオンデマンド配信を実施している。

開催日時：令和7年11月2日（日）14:00～15:30

場所：アクシスかつらぎ 多目的ホール（伊豆の国市）

テーマ：脳卒中から身を守る術

主催：静岡県・静岡社会健康医学大学院大学

講師：

順天堂大学医学部附属静岡病院 山本拓史 先生（医師）

静岡社会健康医学大学院大学 田中仁啓 先生（医師）

順天堂大学医学部附属静岡病院 垣沼智之 先生（薬剤師）

NTT東日本伊豆病院 荻野深雪 先生（看護師）

参加者数：126人

オンデマンド配信視聴回数：557回（令和8年2月2日時点）



YouTube : <https://youtu.be/kEdPLGhPYIQ>

令和7年度の県民向け普及啓発（脳卒中）

世界脳卒中デー、脳卒中月間

- 市町、県内病院の協力を得て、ポスター、SNS、ライトアップ等を活用して県民向けに脳卒中に関する正しい知識や脳卒中の予防に関する普及啓発を行った。

世界脳卒中デー：10月29日（水）

脳卒中月間：10月

<ライトアップ施設>

| 施設 | ライトアップ期間 |
|---------------------|-------------|
| 韮山反射炉（伊豆の国市） | 10/27～11/5 |
| 富士山世界遺産センター（富士宮市） | 10/29 |
| 富士川SA 大観覧車（富士市）【新規】 | 10/26～10/31 |
| 静岡済生会総合病院【新規】 | 10/24～10/29 |
| 静岡市役所「あおい塔」（静岡市） | 10/27～10/31 |
| アクトタワー（浜松市） | 10/29 |
| 聖隷浜松病院（浜松市） | 10/24～10/30 |
| 浜松城（浜松市） | 10/25～10/31 |

(実績) 令和7年度 世界脳卒中デーに合わせた普及啓発

韮山反射炉



富士山世界遺産センター



静岡済生会総合病院



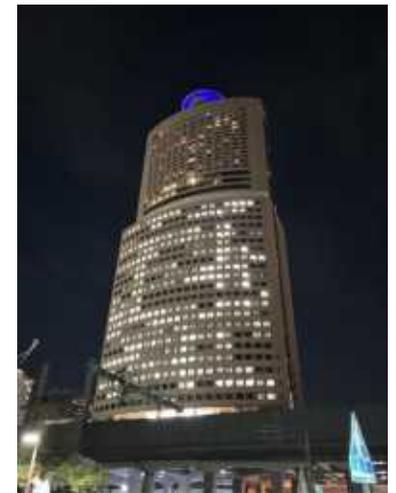
静岡市役所



浜松城



アクトタワー



富士川SA



(実績) 令和7年度 世界脳卒中デーに合わせた普及啓発

県庁本館前への立看板設置



静岡県公式SNSでの情報発信

LINE



X



Facebook



令和7年度の県民向け普及啓発（心血管疾患）

健康ハートの日

- 市町、県内病院の協力を得て、ポスター、SNS、ライトアップ等を活用して県民向けに心臓病に関する正しい知識や心臓病の予防に関する普及啓発を行った。

健康ハートの日：8月10日（日）

<ライトアップ施設>

| 施設 | ライトアップ期間 |
|--------------------------|----------|
| 旭滝（あさひだき）（伊豆市）【新規】 | 8/8～8/10 |
| 出会い橋 ハートのモニュメント（伊豆市）【新規】 | 8/8～8/10 |
| 韮山反射炉（伊豆の国市） | 8/4～8/17 |
| 沼津港大型展望水門「びゅうお」（沼津市）【新規】 | 8/10 |
| ウェルピアながいずみ（長泉町）【新規】 | 8/4～8/12 |
| 富士川SA 大観覧車（富士市）【新規】 | 8/4～8/17 |
| 富士山世界遺産センター（富士宮市）【新規】 | 8/10 |
| 静岡済生会総合病院 | 8/8～8/14 |
| 静岡市役所「あおい塔」（静岡市） | 8/8～8/11 |
| アクトタワー（浜松市） | 8/10 |
| 聖隷浜松病院（浜松市） | 8/8～8/14 |

(実績) 令和7年度 健康ハートの日に合わせた普及啓発

旭滝



出会い橋



富士山世界遺産センター



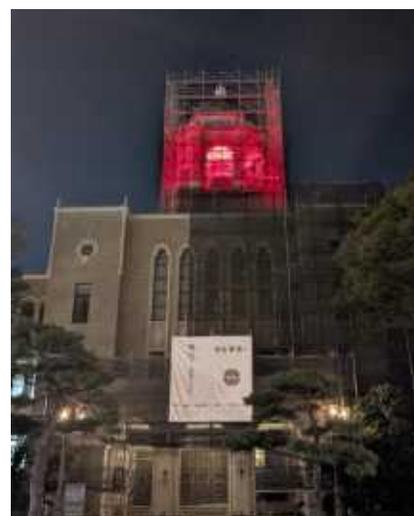
静岡済生会総合病院



韮山反射炉



静岡市役所



びゅうお



アクトタワー



富士川SA



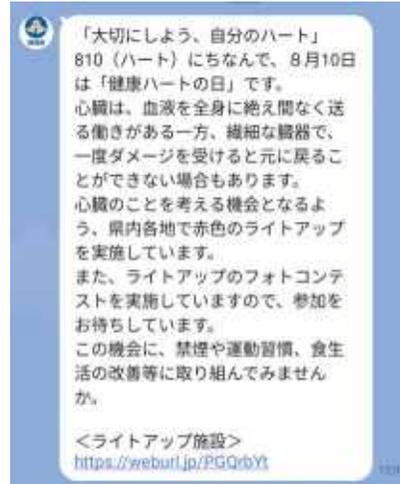
(実績) 令和7年度 健康ハートの日に合わせた普及啓発

県庁本館前への立看板設置



静岡県公式SNSでの情報発信

LINE



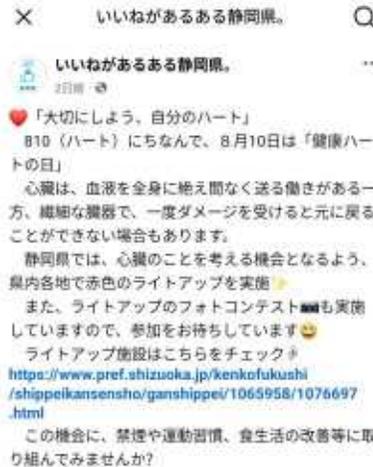
X



Instagram



Facebook



(3) 啓発資材の作成

- | | |
|------------------|----------|
| ア 脳卒中ノート（仮称）の検討 | 資料 2 - 2 |
| イ 初期症状に係る啓発資材の作成 | 資料 2 - 3 |

ア 脳卒中ノート（仮称）の検討

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 目的 | 脳卒中後のリハビリテーションや退院後の生活において、患者が病気を理解し、再発予防を行えるよう支援する。 |
| 概要 | 脳卒中の再発予防や生活の再建に関する冊子の内容を検討する。 |
| 実施主体 | 脳卒中・心臓病等総合支援センター（浜松医科大学医学部附属病院） 静岡県循環器病対策推進協議会 |
| 検討状況 | 資料 2 - 2 |
| 活用方法 | <ul style="list-style-type: none">● 医療機関、介護施設、市町等に幅広く周知● 各相談窓口において患者やその家族等に配布し、脳卒中患者の生活の再建に関する資材の1つとして活用 |

第2次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

- 発症早期から患者及びその家族に、医師をはじめとする多職種チームが、脳卒中に関する現在の状態を踏まえ、再発予防、今後のリハビリテーション、ライフスタイル、介護方法、利用可能な福祉資源等の情報提供を行う体制づくりを進めます。
- 療養生活に移行して、それまで気付かれなかった高次脳機能障害により問題が生じる場合もあるので、家族等がかかりつけ医に相談するように啓発します。
- 後遺症等に関する知識等について、分かりやすく効果的に伝わるよう必要な取組を進めます。

イ 初期症状に係る啓発資材の作成（脳卒中）

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 目的 | 脳卒中の初期症状を県民に啓発し、迅速かつ適切な救急要請等につなげる。 |
| 概要 | 脳卒中の初期症状に気付くための啓発(FAST等)資材を作成する。 |
| 実施主体 | 脳卒中・心臓病等総合支援センター（浜松医科大学医学部附属病院） 静岡県循環器病対策推進協議会 |
| 検討状況 | 資料 2 - 3 のとおり |
| 活用方法 | ● 消防、市町、医療機関等を通じて、県民の目の届くところに掲示する等して啓発を行う。 |

第 2 次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

- 脳卒中を疑うような症状（片側の顔や手足が動きにくい、ろれつが回らない、激しい頭痛）が出現した場合、本人や家族等周囲にいる者が速やかに受診行動をできるように、県民への脳卒中の正しい知識を普及啓発します。
- 「FAST」などを活用した脳卒中の初期症状に気付くための啓発を行うとともに、脳卒中の発症時の対応に関する情報提供を推進していきます。

FAST：脳卒中で起こる3つの症状「顔の麻痺（Face）」「腕の麻痺（Arm）」「言葉の障害（Speech）」と「発症時刻（Time）」の頭文字からなる脳卒中の初期症状を確認する方法

イ 初期症状に係る啓発資材の作成（心血管疾患）

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 目的 | 心筋梗塞等の初期症状を県民に啓発し、迅速かつ適切な救急要請等につなげる。 |
| 概要 | 心筋梗塞等の初期症状に気付くための啓発資材を作成する。 |
| 実施主体 | 脳卒中・心臓病等総合支援センター（浜松医科大学医学部附属病院） 静岡県循環器病対策推進協議会 |
| 検討状況 | 資料 2 - 3 |
| 活用方法 | ● 消防、市町、医療機関等を通じて、県民の目の届くところに掲示する等して啓発を行う。 |

第 2 次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

- 急性心筋梗塞や大動脈瘤・解離を疑うような症状（20分以上続く激しい胸痛等）が出現した場合、本人や家族等周囲にいる者が速やかに救急要請し、胸骨圧迫やAEDによる電氣的除細動の実施ができるように、県民への普及啓発を更に推進します。

(4) その他の事業

- ア 在宅看護支援
- イ 一次脳卒中センター等の情報交換会
- ウ 「急性冠症候群 再発予防フロー（静岡県版）」の活用推進
- エ 心不全手帳の活用
- オ 心不全再入院予防診療支援
- カ 先天性心疾患患者の支援体制構築

ア 在宅看護支援

| 区分 | 内容 |
|------|--|
| 目的 | 脳卒中や慢性心不全患者等に対し、在宅医療や適切な緩和ケアの提供を推進する。 |
| 取組状況 | ・脳卒中や慢性心不全等の緩和ケア等に係る訪問看護ステーションの地域情報交換会を開催（計24回） （一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会に委託） |

第2次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

- 患者の状態に応じた緩和ケアが提供されるよう、緩和ケアの提供体制を充実させます。
- 高齢で心機能の回復が難しい慢性心不全患者に対しては、患者の状態に応じた緩和ケアの実施や看取りを踏まえた対応を在宅医療で行うことを進めます。

イ 一次脳卒中センター等の情報交換会

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 日時 | 令和7年11月8日（土）午後3時～4時30分 |
| 場所 | レイアップ御幸町ビル5階 5-C会議室（オンライン併用） |
| 取組状況 | <p><参加者> 59人（一次脳卒中センター関係者、各消防本部、脳卒中部会関係者）</p> <p><事前アンケート> 一次脳卒中センターを対象に、治療実績のほか、脳卒中患者の平均年齢・男女別割合、死亡率、平均在院日数に係るアンケートを実施</p> <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none">● 地域での病院前スケールの活用<ul style="list-style-type: none">● <u>多くの地域で搬送先選定ではなく院内体制の立上げ・情報共有目的で使用</u>されている。● <u>病院前スケールを適切に活用した症例ではDoor to Punctureが短縮</u>した。● 一方で、<u>救急到着後～手術室までの院内タイムロスや人手不足がボトルネック</u>である。● 血栓回収療法を行える医師の人数や手術中の対応、看護師の理解不足が影響する。● ELVOは論文根拠に基づき導入され、簡便性が評価されている。● FACE2ADは項目が多いが感度・陽性的中率が高く、事前連絡やオンコール体制に有用である。● <u>病院・消防の合同勉強会により、受入体制が円滑になる</u>。● 輪番制地域では病院ごとにスケールを使い分けているが、県内統一を望む声が多い。● Door to needleを60分切るようにお願いしたい。 |

ウ 「急性冠症候群 再発予防フロー（静岡県版）」の活用推進

| 区分 | 内容 |
|----|---|
| 目的 | 令和6年度に作成した「急性冠症候群 再発予防フロー（静岡県版）」の普及を図り、治療に関わる医療従事者による適切なリスクコントロールを推進する。 |

取組状況

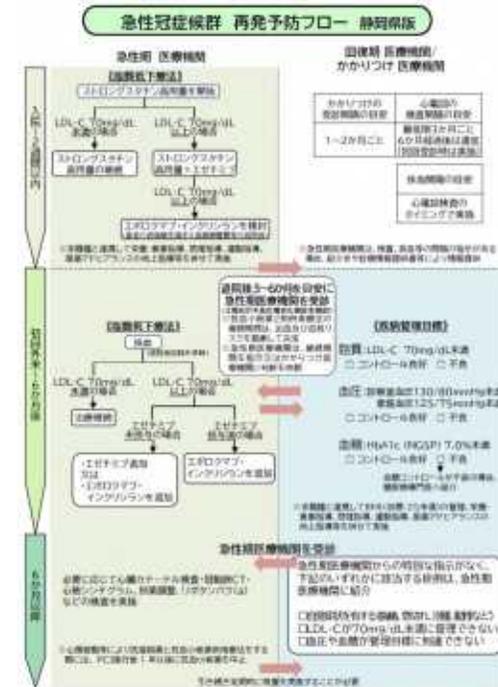
● 関係団体等へ再発予防フローの周知と活用を依頼

（静岡県医師会、静岡県病院協会、静岡県歯科医師会、静岡県薬剤師会、静岡県看護協会、静岡県理学療法士会、静岡県栄養士会、静岡県消防長会、全国自治体病院協議会静岡県支部、静岡県自治体病院開設者協議会、静岡県精神科病院協会、静岡県病院薬剤師会、静岡県訪問看護ステーション協議会、静岡県医薬品卸業協会）

● 再発予防フローの普及のための講演会等を開催

- 静岡県 急性冠症候群 再発予防フロー 普及講演会（R6.11.19）
- 循環器病の医療連携に関する研修会（R7.2.19）
- 静岡県版ACS再発予防フローを活かす～スタート6か月での検証と展望～（R7.6.4）

● 静岡県医師会報（令和7年4月号）へ掲載



今後の取組

- 引き続き研修会等により周知を図っていく。

Ⅰ 心不全手帳の活用

| 区分 | 内容 |
|----|---|
| 目的 | 心不全手帳を生活習慣病の管理、医療連携パスとして利活用し、心不全患者の再入院を減少させる。 |

取組状況

- DPCで心不全患者を診療している県内全医療機関に活用を依頼（R6:13病院⇒R7:16病院）
- 協力医療機関での心不全手帳導入後の再入院率の把握

1年以内の再入院率：12.8% **目標値20%未滿を達成**

R5.10～R6.9の配布患者数：1,378人

上記のうち1年以内の再入院数：176人

R6.10～R7.9の配布患者数：1,599人

＜協力医療機関＞ 下線はR7新規協力

- ・ 下田メディカルセンター
- ・ 順天堂大学医学部附属静岡病院
- ・ 静岡医療センター
- ・ 岡村記念病院
- ・ 静岡市立静岡病院
- ・ 静岡県立総合病院
- ・ 静岡赤十字病院
- ・ 島田市立総合医療センター
- ・ 磐田市立総合病院
- ・ 浜松医科大学医学部附属病院
- ・ 浜松医療センター
- ・ 聖隷浜松病院
- ・ 浜松赤十字病院
- ・ 焼津市立総合病院
- ・ 浜松ろうさい病院
- ・ JA静岡厚生連 遠州病院

今後の取組

- これまでの取組状況を周知し、更なる協力医療機関の拡大を図る。

才 心不全再入院予防診療支援

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 目的 | 心不全の包括的診療体制を構築する試みとして、心不全急性増悪の早期診断を可能とするデバイス（呼吸データを可視化）を導入し、心不全急性増悪の早期発見を図り、早期治療に結びつける。 |
| 導入施設 | ・浜松医科大学 |
| 取組状況 | ・デバイスを心不全患者及び健常者に順次配布し、データ収集及び解析し、心不全急性増悪の早期発見・早期治療における多職種連携を図っている。 |

第2次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

○慢性心不全患者は、退院後、身近なかかりつけ医への定期受診や訪問診療で増悪を予防するために心不全と基礎疾患の治療を続けます。急性増悪時には病診連携により地域の急性期医療機関で入院治療を受け、在宅生活への速やかな復帰を目指します。このように慢性心不全患者の在宅での療養が継続されるように、地域の仕組づくりを進めます。

カ 先天性心疾患患者の支援体制構築

| 区分 | 内容 |
|------|---|
| 目的 | 県内の成人先天性心疾患（ACHD）患者情報を収集・登録するデータベースを構築し、エビデンスに基づく医療提供を推進する。 |
| 導入施設 | ・ 県立こども病院 |
| 取組状況 | ・ 構築しているシステムについて、関係者への周知等を図るとともに、システムの検証等を実施している。 |

第2次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

○学校健診等の機会における小児の循環器病患者の早期発見を推進するとともに、小児期から成人期にかけて循環器病に係る必要な医療を切れ目なく行うことができる移行医療支援の体制整備、療養生活に係る相談支援及び疾病にかかっている児童の自立支援を推進します。

(参考) 循環器病対策推進協議会、脳卒中部会・心血管疾患部会

| 区分 | 内容 | | |
|------|--|--|--|
| 目的 | 第2次静岡県循環器病対策推進計画の進行管理等を行う。 | | |
| 取組状況 | ・循環器病対策推進事業の実施や脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業（厚生労働省）に関する状況の共有等を行っている。 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

第2次静岡県循環器病対策推進計画の関連記載

県循環器病対策推進協議会及び各部会のほか、本計画と整合性を図る「第9次静岡県保健医療計画」、「第4次静岡県健康増進計画」、「第9次ふじのくに長寿社会安心プラン」、「第4期静岡県地域福祉支援計画」、「第7期静岡県障害福祉計画」、「静岡県傷病者の搬送及び受入の実施に関する基準」の推進を通じて、各審議会、協議会等も活用し、本計画の目標達成を図ります。